

こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< 113 2013.1.27 連絡先 402-1622 >

条例案へご意見をお寄せ下さい 「みんなでとりくむ災害対策基本条例（仮称）」

11日午前11時から市議会全員協議会が開かれました。6月議会で設置された政策条例策定協議会（各会派からの11名で構成。共産党からは渡辺、姫田両議員が参加）で協議してきた「（仮称）みんなでとりくむ災害対策基本条例」（素案）の概要と市民のみなさんからの意見募集の取り組みについて報告、提案されました。

この条例の趣旨は、「市民の生命・財産を守るため、近年の未曾有の大災害から、改めてその重要性について認識された自助・共助・公助の精神を生かし、自らの身は自らで守ることを基本に、行政に災害対策体制の整備はもとより、家族・地域の防災意識の高揚を図り、相互協力のもと災害に備える中で、災害に強い「まち」となるよう、その対策をより一層推進していくために必要な事項を定める」というものです。

条例案や資料は、市議会ホームページに掲載。市役所1階の総務課資料コーナーや3階の議会事務局でもご覧いただけます。みなさんのご意見は、メール、ファックス、郵送またはご持参のいずれかでお寄せ下さい。いただきましたご意見（個人情報を除く）と回答は、市議会ホームページで公表します。締め切りは、2月15日です。

この条例案は、みなさんのご意見も参考にして、2月定例議会に提案の予定です。

みち子のひとりごと 安らかに

このコーナーで、以前紹介させていただいた、柴田トヨさんが20日101歳で亡くなりました。

90歳を過ぎて詩を書き始め、98歳で初めての詩集を発行し、多くの人の心を暖め、元気づけました。明治、大正、昭和、平成と文字通り1世紀を生き抜いたトヨさん。大震災や戦争、いじめや裏切り、さびしさなどから死のうと思つた

こともあると振り返るトヨさん。そういうとき「がんばれがんばれ」と自分を叱咤激励しながら、生きてきたトヨさん。今の自分があるのは、縁ある人たちの愛に支えられているからと。

「人生いつだってこれから。だれにも朝はかならずやってくる」というのはトヨさんの信条。訃報に接し、読みかえました。

「あなたにも空を見上げるゆとりが必要よ」

「そういえば、しばらく空を見上げていないような



生活保護の改悪なんて許せないわね

日刊赤旗・おはよう ニュース問答から

みどり 生活保護基準引き下げの圧力が高まっているね。

陽子 社会保障審議会の部会が、生活保護基準につ

いての報告を發表したわ。高齢者の单身や夫婦以外の世帯では、生活保護基準の方が一般低所得者の水準を上回っているって報告されたのよ。

みどり 生活保護を利用する資格があるのに実際に利用しているのは2割程度。そういう人たちと比べて生活保護基準を下げたっていったら下がる一方になつて最低生活が保障されないよ。

陽子 給料が下がっているのだから低所得者と比べて生活保護基準の方が高

なることは不思議ではない。生活保護利用者が“得”しているかのよう描いて、基準引き下げを正当化しようとするなんて…。

みどり 「健康で文化的な最低限度」(憲法第25条)の生活を送れるかどうかの検証もなく、引き下げ先にあるのは乱暴よ。

陽子 報告の数字を機械的に現行の基準に反映させると、夫婦と子ども二人の世帯では約2万6300円も保護費が減るといわれているのよ。

みどり これでは利用者の生活はますます困窮してしまうわ。親の経済的困窮が子どもの人生にも影響する「貧困の連鎖」が問題になつているのに、それを助長することになるだけよ。

陽子 生活保護基準の引き下げは利用者だけの問題ではないわ。

みどり ということ?

陽子 最低賃金にも影響

するし、住民税の非課税基準や国民健康保険料の減免や就学援助など、さまざまな福祉制度の基準ともなつているのよ。

みどり 就学援助を利用する子どもの数は過去最多よ。基準の引き下げは、生活保護を利用せずにギリギリで頑張っている人たちを直撃するのね。

陽子 自民党は生活保護の利用者増を問題視しているけれど、社会保障を切り縮め、貧困と格差を広げてきた政治こそ改めるべきよ。

みどり まったく自公政権には反省のかけらもみられないわ。基準引き下げは、国民全体の問題だわ。生活保護改悪は許さない国民の声をもちと強めないとね。

2013・1・19(土)



第二章 戦争の放棄

第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。